

氏名(本籍)	むら	やま	ゆう	じ	司(茨城県)
学位の種類	理	学	博	士	
学位記番号	博	乙	第	403	号
学位授与年月日	昭和62年7月31日				
学位授与の要件	学位規則第5条第2項該当				
審査研究科	地球科学研究科				
学位論文題目	Regional Structure of Commodity Flows in Japan: An Application of Dynamic Geographical Field Theory (日本における貨物流動の地域構造—動的な地理的場理論の枠組を用いて—)				
主査	筑波大学教授	理学博士	奥	野	隆史
副査	筑波大学教授	理学博士	山	本	正三
副査	筑波大学教授	理学博士	佐	々	木博
副査	筑波大学助教授	理学博士	高	橋	伸夫
副査	筑波大学助教授	理学博士	齋	藤	功

論 文 の 要 旨

本論文は、地域間相互作用と社会・経済的地域間格差とは相互依存関係にあるという観点に立ち、動的な地理的場理論に基づいて日本における貨物流動の地域構造を解明したものである。その主な目的は、B. J. L. Berry によって提唱された地域的相互作用と地域性との間に相互規定かつ異種同型的関係があるという地理的場理論に時間的要素を導入することによって、その動態化をはかり、その分析枠組の利用から日本の貨物流動パターンの実態とその時系列変化を明らかにするとともに、それらの要因分析を行なうことにある。上記の目的のために、初めに1970年と1980年の両年次に関する貨物の純流動資料に対して二価因子分析を施し、両年次を通じて有意な6種の要約的な流動パターンを抽出した。そのうち最も重要なものは工業財の流動パターンであり、太平洋ベルト地帯で卓越する特徴を有し、10年間に関東圏内で完結性を向上させる変化傾向を示し、次いで重要な農業関連財は持定発地から拡散的流動を生じ、そのパターンは時間的に強化されつつあることなどが判明した。また、6種のうち最も多くの変化を示したのは水産財であり、流動距離を大幅に増大させている。

次に、このような流動と相互規定的関係にある地域の社会・経済的属性の上記と同様の両年次の資料に対して通常の因子分析を施し、6種の主要な地域性を抽出した。それらは都市的活動、農村的活動、港湾的活動などであった。上記の6主要流動とこれら6種の主要地域性との対応関係を明

らかにするため、正準相関分析を行ない、有意な4組の正準変量を得た。それらの変量の構造に対する検討の結果、工業、農業関連、輸送機器の財の流動パターンとその変化は都市的活動と、化学工業財のそれは人口および農村的活動とそれぞれ高い相互依存関係にあることなどが判明した。

審 査 の 要 旨

本論文は、交通地理学における主要課題の一つである商品流動の地域構造を問題としたものである。この問題に対する研究は、Berryによる地理的場理論の提唱を契機として流動の地域的パターンの記述から分析へと発展してきたが、そこから導かれる流動と地域性間の関係の一般性について、上記の理論の静態的性質のため疑問が呈せられてきた。著者は、この理論に対して時間的要素を加味し、その現実問題への運用を可能にする方法を構築している。そして、その方法の利用によって日本の貨物流動パターンの地域構造を解明している。その結果として、最近10年間で関東周辺地域で完結性を高めている工業、農業関連等の財の流動パターンは、都市的活動と相互規定的関係にあること、化学工業財のそれは人口・農村的活動と強く相互依存していることなど新しい知見を得ている。

このような、時間的要素の加味による動的な地理的場理論の分析枠組の構築およびその利用によって得られる流動と地域性間の一般性のある相互規定関係の実態は、交通地理学において難問とされる地域的補完問題および地域的均衡問題を実証的に解決するための方法および事実を提供し、交通地理学の発展に大きく資するものと高く評価できる。

よって、著者は理学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。